

アメリカ合衆国の社会と文化の
理解のための
カリキュラム開発研究

第3集

1996年1月

広島大学国際理解教育研究会

アメリカ合衆国の社会と文化の
理解のための
カリキュラム開発研究

第3集

1996年1月

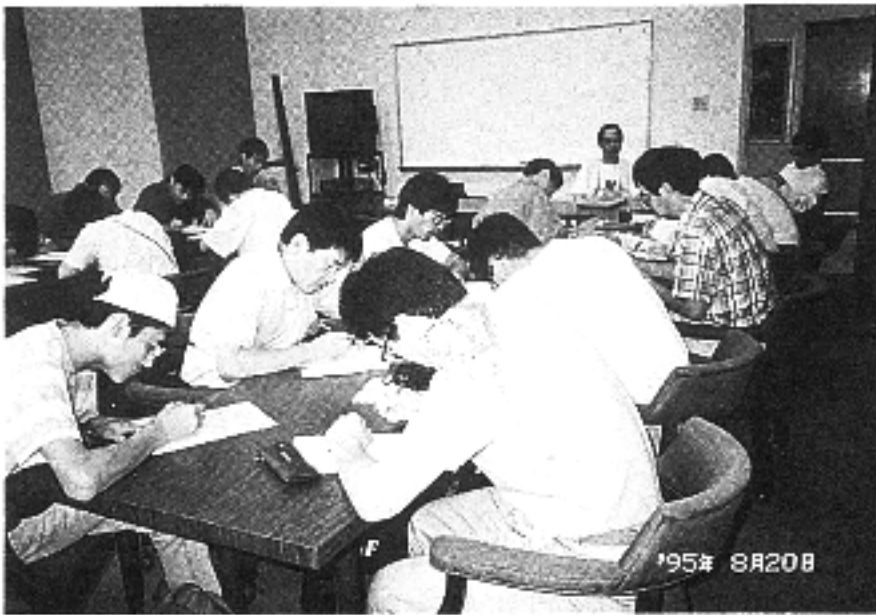
広島大学国際理解教育研究会



(ミネアポリス市でのパーティ)



(ミネアポリス空港にて)



(ECUでの教材開発会議)



(グリーンビル市でのパーティ)

アメリカ合衆国の社会と文化の理解のためのカリキュラム開発研究 第3集

目次

はじめに

I	1995年度の研究の概要	I
1.	研究主題	I-1
2.	研究団体	I-1
3.	研究組織	I-1
4.	研究目的	I-3
5.	研究実施状況	I-3
II	1995年度の研究の内容	II
1.	事前研究	II-1
2.	予備調査	II-2
3.	現地調査	II-4
4.	事後研究	II-7
III	1995年度の調査研究	III
1.	チームAの調査研究 日米のごみリサイクルの比較	III-1-1
2.	チームBの調査研究 やってみよう！アメリカと日本の子どもたちの遊び ～多民族の伝承遊びの内容とその背景～	III-2-1
3.	チームCの調査研究 循環する水と人々の暮らし	III-3-1
4.	チームDの調査研究 青少年の非行防止のための教育 ～禁煙教育を中心として～	III-4-1
5.	チームEの調査研究 「平和」を支える真の国際理解	III-5-1
6.	チームFの調査研究 住みやすいまちづくりを求めて ～日米の都市環境の比較を通して～	III-6-1

IV	1995年度の教材開発	IV
1.	チームAの教材開発 リサイクルは、今どこまで	IV-1-1
2.	チームBの教材開発 やってみよう！アメリカと日本の子どもたちの遊び	IV-2-1
3.	チームCの教材開発 みずきとウォルターの水の旅	IV-3-1
4.	チームDの教材開発 健全な生活環境をめざして ～アメリカの喫煙率低下にみる青少年問題解決の方向性～	IV-4-1
5.	チームEの教材開発 平和について考えよう！	IV-5-1
6.	チームFの教材開発 住みやすいまちづくりを求めて ～日米の都市環境の比較を通して～	IV-6-1
V	1995年度の研究の評価	V
1.	アメリカ合衆国現地調査の自己評価	V-1
2.	各チームの研究の自己評価	V-7
3.	日本側評価者による他者評価	V-14
4.	アメリカ合衆国側評価者による他者評価	V-17
VI	1995年度の研究の総括と今後の課題	VI
1.	1995年度の研究の総括	VI-1
2.	広島プロジェクトの今後の課題	VI-2
VII	広島プロジェクトの3カ年の研究から学ぶもの －異文化理解教育のカリキュラム開発の視点と方法－	VII
1.	3カ年の研究の整理	VII-1
2.	カリキュラム開発の視点と方法	VII-6

[編集後記]

はじめに

広島大学国際理解教育研究会による「アメリカ合衆国の社会と文化の理解のためのカリキュラム開発研究」は、1993年から1995年までの3ヵ年計画で始められたが、ようやくにしてここに、最終年次の研究成果を集録した報告書の刊行にこぎつけられたことを、関係者とともに喜びたいと思う。

本年度も、第1・2年次と同様に、中国地方5県から選抜された現場教師によって構成された6チームのメンバーは、各チームごとの研究主題の選定、調査研究の計画、夏休み中のアメリカ合衆国の現地調査、調査結果に基づく教材化という研究活動を自主的・自発的に展開してきた。明確な問題意識による各チームの意欲的な調査研究・教材開発が行われたことによって、ここによりやカリキュラムを広く世に問うことになったのである。

3年間の広島プロジェクトは、何をわれわれに示唆してくれたのであろうか。この間の研究を通じてわれわれが多くのことを学んできたが、特筆すべきことは次の5点である。

第1は、異文化を理解するための基本的な視点を学ぶことができたことである。われわれは、わが国とアメリカ合衆国の社会と文化を相互に理解し合うための19の具体的な教材を、日本語と英語の2ヶ国語で開発してきた。第1年次は生活文化に、第2年次は歴史的伝統に焦点をあてて教材を開発した。そして第3年次は、人々の問題解決の努力に焦点をあてて教材化を図った。これら3つの視点は、異なる社会や文化を理解するための基本的な視点となるのではなかろうか。

第2は、日米の教師が共同で教材研究・教材開発を行うことや、そのためのパートナーシップやネットワークづくりが、異文化理解教育を推進するうえでは特に大切であるということである。われわれは、アメリカ合衆国での現地調査およびその後の教材開発を、アメリカ合衆国のパートナーの協力のもとに行ってきた。そのことは、アメリカ合衆国の社会や文化についてのより深い理解を可能にただけでなく、参加教師とパートナーとの間のネットワークづくりという点でも大変有益であった。

第3は、教師の生の異文化体験が、教室の子供たちの国際理解を図るうえでの土台となるということを実感できたことである。われわれは、短い期間ではあるが、アメリカ合衆国での現地調査、ワークショップ、ホームステイ、フレンドシップパーティなどの異文化体験を通して、生のアメリカ合衆国の社会や文化に触れてきた。そのことは、子供たちの国際理解を深めるうえでも大変貴重であった。

第4は、異文化を理解することは、自文化を理解することでもあるということを確認したことである。われわれは、アメリカ合衆国での現地調査および教材開発においては、相手の文化を知るだけにとどまらないで、積極的に日本の文化を知ってもらうことに努めてきた。そのことによって、両国の文化の相違点・共通点とその背景が理解できるだけでなく、アメリカ合衆国の社会と文化をより深く理解することができると同時に、わが国の社会と文化のよさを再発見することもできることがわかった。

そして第5は、3ヵ年の研究を通して、ささやかではあるが、国際理解教育の中心をなす異文化理解教育のカリキュラム開発の視点と方法を発見することができたことである。また、そのことを参加メンバーが共有することができたことである。

3年間のアメリカ合衆国での現地調査に当たっては、イーストカロライナ大学、ミネソタ大学、ミネソタ州日米協会、ミネソタ州教育省などの関係者をはじめ、ノースカロライナ州やミネソタ州の各学校の関係者からの温かい指導が得られた。とくに本年度は、現地のコーディネーターとしてお世話になったイーストカロライナ大学国際プログラム副所長ドン・スペンス氏、ミネソタ州日米協会事務局長のポール・シャーバン氏には、現地調査前後の広島訪問の際に貴重な助言をいただいた。また、米日財団の小栗章氏には何度も広島に来ていただき指導していただいた。評価者としてお願いした、兵庫教育大学岩田一彦先生、広島大学棚橋健治先生（いずれも兵庫プロジェクト、鳴門プロジェクトの責任者）からは、適切な助言と示唆をいただいた。広島プロジェクトを支えていただいたこれら多くの方々に深甚の謝意を表したいと思う。

最後になったが、参加者の熱意と協力による積極的な教材開発作業に加えて、第1・2年次の研究代表者で現在鳴門教育大学の溝上泰教授、3年間にわたって事務局を支えてもらった広島大学学校教育学部の小原友行助教授の献身的な指導に対して敬意の念を示したい。

1996年1月1日

広島大学国際理解教育研究会
研究代表者 広島大学学校教育学部教授
小 篠 敏 明

I 1995年度の研究の概要

1. 研究主題

「アメリカ合衆国の社会と文化の理解のためのカリキュラム開発研究」

2. 研究団体

広島大学国際理解教育研究会

(3月31日まで)

〒734 広島市南区東雲三丁目1番33号

広島大学学校教育学部

電話 082-281-3141

FAX 082-284-2406

(4月1日から)

〒739 東広島市鏡山一丁目1番1号

広島大学学校教育学部

電話 0824-22-7111

FAX 0824-24-7108

3. 研究組織

(1) 研究代表者

広島大学 学校教育学部 教授 溝上 泰 (社会科教育学)

(3月31日まで, 現在, 鳴門教育大学教授)

広島大学 学校教育学部 教授 小篠 敏明 (英語教育学)

(4月1日から)

(2) 研究分担者

広島大学大学院国際協力研究科 教授 中山 修一 (地理学)

広島大学 学校教育学部 助教授 小原 友行 (社会科教育学)

広島大学 学校教育学部 助教授 深沢 清治 (英語教育学)

(3) 研究協力者

① チームA

広島県広島市立千田小学校 教頭 武 智 正 紀 (社会科)

広島県東広島市立西条中学校 教諭 中 森 英 雄 (社会科)

広島県広島市立城山中学校 教諭 原 みよ子 (英語科)

② チームB

広島大学附属東雲小学校 教諭 吉 浦 公 子 (社会科)

島根県三隅町立岡見小学校 教諭 洗 川 玲 子 (社会科)

島根県大和村立大和中学校 教諭 永 田 祐 治 (英語科)

- ③ チームC
- | | | | | |
|----------------|----|-----|----|-------|
| 広島大学附属東雲小学校 | 教諭 | 上之園 | 強 | (社会科) |
| 島根県江津市立有福温泉小学校 | 教諭 | 平田 | 潤 | (社会科) |
| 広島大学附属三原中学校 | 教諭 | 山崎 | 葉子 | (英語科) |
- ④ チームD
- | | | | | |
|--------------|----|----|----|-------|
| 広島県広島市立字品中学校 | 教諭 | 森 | 信吉 | (社会科) |
| 山口県豊田町立豊田中学校 | 教諭 | 齋藤 | 教津 | (社会科) |
| 山口県立西京高等学校 | 教諭 | 栗林 | 正和 | (英語科) |
- ⑤ チームE
- | | | | | |
|----------------|----|----|----|-------|
| 広島大学附属三原中学校 | 教諭 | 安井 | 盛一 | (社会科) |
| 島根県米子市立尚徳中学校 | 教諭 | 高石 | 博史 | (社会科) |
| 鳥取県米子市立後藤ヶ丘中学校 | 教諭 | 宇城 | 明 | (英語科) |
- ⑥ チームF
- | | | | | |
|--------------|------|----|-----|-------|
| 岡山県教育センター | 指導主事 | 大月 | 隆昌 | (社会科) |
| 広島県広島市立口田中学校 | 教諭 | 野村 | 隆之 | (社会科) |
| 岡山県立笠岡商業高等学校 | 教諭 | 大西 | 幸之助 | (英語科) |

(4) 評価者

兵庫教育大学 教授 岩田 一彦 (元兵庫プロジェクト代表者)
 広島大学 教育学部 助教授 棚橋 健治 (元鳴門プロジェクト事務局長)

(5) アメリカ合衆国側のコーディネーター

ポール・シャバーン (ミネソタ州日米協会事務局長)
 ウォルター・エンロー (ハムリン大学国際理解教育研究所教授)
 ドナルド・スペンス (イーストカロライナ大学国際プログラム副所長)

(6) アメリカ合衆国側の研究協力者

- ① チームA
- ロジャー・ワンゲン (ミネソタ州教育省社会科専門官)
 H. C. ハジンス (イーストカロライナ大学教育学部教授)
 ジョン・スウォープ (イーストカロライナ大学教育学部副学部長)
- ② チームB
- ケイティ・マクドナルド (ミネソタ州ヒル・マレー高等学校教諭)
 グレゴリー・ヘスティング (イーストカロライナ大学継続教育研究所副所長)
- ③ チームC
- デール・エリクソン (ミネソタ州レッドウッド・バレー高等学校教諭)
 ドナルド・スペンス (イーストカロライナ大学国際プログラム副所長)
 ヘレン・パーク (イーストカロライナ大学教育学部理科教育)
- ④ チームD
- クリスティン・ソンガスト (ミネソタ州ミネアポリス市ダウンタウン・オープン

スクール教諭)

アーチャー・スミス (イーストカロライナ大学社会学教授)

⑤ チームE

エリザベス・シマー (ミネソタ州ミニ・コミュニケーション社オーナー)

エドウィン・ベル (イーストカロライナ大学教育学部教育指導学科教授)

⑥ チームF

キティ・エンロー (ミネソタ州ミネアポリス市ピルグリム・レーン学校教諭)

ヘンリー・ピール (イーストカロライナ大学教育学部副学部長)

ドナルド・スペンス (イーストカロライナ大学国際プログラム副所長)

4. 研究目的

- (1) アメリカ合衆国における、環境問題、多民族・多文化問題、青少年問題、平和問題といった社会問題の解決の努力を理解する6つのテーマについての教材開発を、日本語・英語の2カ国語で行う。
- (2) アメリカ側教師の協力による調査研究や教材開発のワークショップを通して、アメリカ理解学習と日本理解学習の情報・教材の交換を行うとともに、相互理解のための教材開発を日米教師の共同で試みる。また、その過程で日米の学校間・教師間のネットワークを作る。
- (3) アメリカ合衆国での異文化体験を通して、参加教師の国際理解を深める。
- (4) 参加教師の学校・地域での実践を通して、子供たちの国際理解を図る。
- (5) この研究を通して、学校・地域の中での国際理解教育のモデルを作成する。

5. 研究実施状況

- (1) 事前研究…3月～7月 (調査計画の作成, 教材案の作成・検討, 広島市)
 - ① 第1回研究会…1995年3月26日 (日)
 - ② 第2回研究会…1995年4月22日 (土)・23日 (日) (ワークショップ)
 - ③ 第3回研究会…1995年5月28日 (日)
 - ④ 第4回研究会…1995年6月25日 (日)
 - ⑤ 第5回研究会…1995年7月30日 (日)
- (2) アメリカ合衆国予備調査 (現地調査の打ち合せ)
 - ① 調査者 (2名) …小篠敏明教授・小原友行助教授
 - ② 時期…1995年4月27日 (木)～5月4日 (木)
 - ③ 調査場所…ミネアポリス市 (ミネソタ州) →ワシントンDC →グリーンビル市 (ノースカロライナ州)

- (3) アメリカ合衆国現地調査（ホームステイ及びワークショップを含む）
- ① 調査者（21名）…溝上泰教授・小篠敏明教授・小原友行助教授・深沢清治助教授，研究協力者17名
 - ② 時期…1995年8月8日（火）～8月23日（水）
 - ③ 調査場所…ミネアポリス市（ミネソタ州）→ワシントンDC→グリーンビル市（ノースカロライナ州）
- (4) 事後研究…9月～11月（教材開発，広島市および東広島市）
- ① 第6回研究会…1995年9月9日（土）・10日（日）（ワークショップ）
 - ② 第7回研究会…1995年10月22日（日）（各チーム別）
 - ③ 第8回研究会…1995年11月26日（日）
- (5) 報告書作成…1995年11月～12月（報告書づくり）
- (6) 研究成果の啓蒙・普及活動…1995年9月～

Ⅱ 1995年度の研究の内容

1. 事前研究

(1) 第1回研究会

- ① 日時：1995年 3月26日(日) 10:00～15:00
- ② 場所：広島県立生涯学習センター
- ③ 内容：
 - ・新旧研究協力者の引き継ぎ
 - ・第2年次の研究の概要紹介
 - ・第3年次の研究テーマの決定
 - ・第3年次の研究チームの編成
 - ・第3年次の研究計画の検討

(2) 第2回研究会

- ① 日時：1995年 4月22日(土) 14:00～20:00
1995年 4月23日(日) 9:30～15:00
- ② 場所：広島大学附属東雲小学校
- ③ 内容：
 - ・グリーンビル市，ワシントンD.C.，ミネアポリス市の紹介
(広島経済大学 田中 泉 先生)
(広島大学大学院留学生 ジェニファー・ウィンザーさん)
(大阪外国語大学留学生 ミキ・テイラーさん)
 - ・研究チーム別の研究テーマの決定
 - ・研究計画の決定
 - ・現地調査計画の決定

(3) 第3回研究会

- ① 日時：1995年 5月28日(日) 10:00～15:00
- ② 場所：広島大学附属東雲小学校
- ③ 内容：
 - ・アメリカ合衆国予備調査の報告及び質疑応答
(広島大学学校教育学部 小篠敏明教授)
(広島大学学校教育学部 小原友行助教授)
 - ・予備調査結果に基づく研究計画，現地調査計画の再検討

(4) 第4回研究会

- ① 日時：1995年 6月25日(日) 10:00～15:00
- ② 場所：広島大学附属東雲小学校
- ③ 内容：
 - ・講義「異文化理解教材開発の視点と方法」
(広島大学学校教育学部 小原友行助教授)
 - ・研究チーム別のアメリカ合衆国現地調査計画の具体案作成

(5) 第5回研究会

- ① 日時：1995年 7月30日(日) 10:00～15:00
- ② 場所：広島大学附属東雲小学校
- ③ 内容：
 - ・アメリカ合衆国現地調査の最終案内
 - ・アメリカ合衆国現地調査の最終打ち合せ
 - ・現地調査計画の最終決定及び報告

2. 予備調査

(1) 調査者(2名) …小篠敏明教授・小原友行助教授

(2) 時期…1995年4月27日(木)～5月4日(木)

(3) 調査場所…ミネアポリス市(ミネソタ州)→ワシントンDC→グリーンビル市(ノースカロライナ州)

(4) 予備調査の主な内容

- ① 現地調査の研究打ち合せ
- ② 現地調査の日程作成
- ② 現地調査のホテル予約

(5) 面会者

- ① ミネアポリスでの面会者
 - ウォルター・エンロー(ハムリン大学国際理解教育研究所教授)
 - ポール・シャーバン(ミネソタ州日米協会事務局長)
- ② ワシントンDCでの面会者
 - ミホ・フジワラ(ジョージタウン大学大学院留学生)
- ③ グリーンビルでの面会者
 - ドナルド・スペンス(イーストカロライナ大学国際プログラム副所長)
 - H. C. ハジンス(イーストカロライナ大学教育学部教授)
 - グレゴリー・ヘスティング(イーストカロライナ大学継続教育課課長補佐)
 - エメット・フロイド(イーストカロライナ大学教育学部助教授)
 - ジョン・スウォープ(イーストカロライナ大学教育学部副学部長)
 - R. C. チア(イーストカロライナ大学教育学部心理学科教授)
 - ケイテイー・タリー(イーストカロライナ大学農村教育研究所所長)

(6) 旅程

4月27日(木)

- | | |
|-------|-----------------------------|
| 9:42 | 広島駅発(新幹線ひかり34号, 11:15新大阪駅着) |
| 11:46 | 新大阪駅発(はるか21号, 12:31関西空港着) |
| 15:20 | 関西空港出発(NW 070便) |

- 14:30 デトロイト空港到着
 16:40 デトロイト空港出発 (NW 043便)
 17:36 ミネアポリス空港到着 (ポール・シャープバン氏出迎え)
 ホテル・ラクسفোর্ドスウィート宿泊
- 4月28日 (金)
 9:00 ウォルター・エンロー氏, ポール・シャープバン氏と現地調査の
 打ち合せ, ホテル予約の確認, 朝食会等の予約
 13:00 ポール・シャープバン氏の案内で予備調査
 ホテル・ラクسفোর্ドスウィート宿泊
- 4月29日 (土)
 11:20 ミネアポリス空港出発 (NW 316便)
 14:44 ワシントンDC到着 (ミホ・フジワラさん出迎え)
 フジワラさんと現地調査の打ち合せ, ケネディーセンター訪問
 ホテル・セントジェームズ宿泊
- 4月30日 (日)
 スミソニアン博物館の予備調査 (ホロコーストミュージアム)
 ホテル・セントジェームズ宿泊
- 5月 1日 (月)
 9:00 セールスマネージャーに面会, ホテルの予約
 12:10 ワシントンD.C. 出発 (US 943便)
 13:16 ローリーダーラム空港到着 (ドン・スペンス氏出迎え)
 午後 グリーンビルへ移動 (スペンス氏の車)
 H. C. ハジンス氏宅で夕食会, 研究打ち合せ
 ホテル・ヒルトンイングリーンビル宿泊
- 5月 2日 (火)
 午前 イーストカロライナ大学訪問
 午後 イーストカロライナ大学国際プログラム訪問
 16:00 イーストカロライナ大学のスタッフと現地調査の打ち合せ
 21:00 ローリーへ移動 (スペンス氏の車)
 ホテル・ベルベットクロークイン宿泊
- 5月 3日 (水)
 9:25 ローリーダーラム空港出発 (NW 1725便)
 11:11 デトロイト空港到着
 12:50 デトロイト空港出発 (NW 069便)
- 5月 4日 (木)
 15:25 関西空港到着
 17:18 関西空港発 (はるか42号, 18:08新大阪駅着)
 18:28 新大阪駅発 (新幹線のぞみ21号, 19:51広島駅着)

3. 現地調査

(1) 調査者（21名）

① 研究代表者（2名）

溝上 泰（鳴門教育大学学校教育学部教授，社会科教育）

小篠 敏明（広島大学学校教育学部教授，英語教育）

② 研究分担者（2名）

小原 友行（広島大学学校教育学部助教授，社会科教育）

深沢 清治（広島大学学校教育学部助教授，英語教育）

③ 研究協力者（6チーム，17名）

※チームCの山崎葉子教諭は病気のため不参加

(2) 時期…1995年8月8日（火）～8月23日（水）

(3) 調査場所…ミネアポリス市（ミネソタ州）→ワシントンDC→グリーンビル市（ノースカロライナ州）

(4) 各チームの調査研究課題

① チームA

メンバー：武智正紀，中森英雄，原みよ子

研究課題：日米のごみリサイクルの比較

② チームB

メンバー：吉浦公子，洗川玲子，永田祐治

研究課題：やってみよう！アメリカと日本の子どもたちの遊び
～多民族の伝承遊びの内容とその背景～

③ チームC

メンバー：上之園強，平田 潤，深沢清治

研究課題：循環する水と人々の暮らし

④ チームD

メンバー：森 信吉，齋藤教津，栗林正和

研究課題：青少年の非行防止のための教育
～禁煙教育を中心として～

⑤ チームE

メンバー：安井盛一，高石博史，宇城 明

研究課題：「平和」を支える真の国際理解

⑥ チームF

メンバー：大月隆昌，野村隆之，大西幸之助

研究課題：住みやすいまちづくりを求めて
～日米の都市環境の比較を通して～

(5) 旅程

8月 8日 (火)

15:20 関西空港出発 (ノースウェスト70便)
14:30 デトロイト空港到着
17:15 デトロイト空港出発 (ノースウェスト43便)
18:10 ミネアポリス空港到着
ロジャー・ワンゲン氏出迎え
ホテル「ラクスフォードスウィート」宿泊

8月 9日 (水)

09:30 朝食会 (各チームのパートナーと現地調査の打ち合せ)
午後 各チーム別の現地調査
夜 野球観戦
22:00 チーフミーティング
ホテル「ラクスフォードスウィート」宿泊

8月10日 (木)

午前 ミネアポリス市の現地調査
午後 ミネアポリス市の現地調査
夕方 ミネソタ州日米協会会長宅でのパーティー
ホテル「ラクスフォードスウィート」宿泊

8月11日 (金)

11:25 ミネアポリス空港出発 (ノースウェスト316便)
14:44 ワシントンDC到着
藤原美保さん出迎え
ホテル「セントジェームズ」宿泊

8月12日 (土)

全日 ワシントンDCの現地調査 (スミソニアン博物館など)
ホテル「セントジェームズ」宿泊

8月13日 (日)

12:20 ワシントンDC出発 (US961便)
13:25 ローリーダーラム空港到着
ドン・スペンス氏出迎え
14:00 ローリー市出発 (ECUバス)
16:00 グリーンビル市到着
ホテル「ヒルトンイン・グリーンビル」宿泊

8月14日 (月)

10:00 全体会, 現地調査打ち合せ (乗馬クラブセンター)
12:00 昼食会 (グリーンビル市長, 学部長出席)
13:00 文献調査 (ECU図書館)
22:00 チーフミーティング
ホテル「ヒルトンイン・グリーンビル」宿泊

- 8月15日(火)
 全日 各チーム別のグリーンビル市の現地調査
 ホーム・ステイ
- 8月16日(水)
 全日 各チーム別のグリーンビル市の現地調査
 19:00 フレンドシップ・パーティ(乗馬クラブセンター)
 ホーム・ステイ
- 8月17日(木)
 全日 各チーム別のグリーンビル市の現地調査および学校訪問
 21:00 チーフミーティング
 ホテル「ヒルトンイン・グリーンビル」宿泊
- 8月18日(金)
 全日 調査報告書作成・教材開発(ECU教育学部会議室・コンピュータ室)
 ホテル「ヒルトンイン・グリーンビル」宿泊
- 8月19日(土)
 10:00 調査結果の報告会(ECU教育学部会議室)
 11:45 現地調査の自己評価
 午後 お別れパーティの準備(寿司、焼き鳥)
 19:00 お別れパーティ(ハジンス博士宅)
 ホテル「ヒルトンイン・グリーンビル」宿泊
- 8月20日(日)
 08:00 グリーンビル市出発(ECUバス)
 10:00 ローリー市到着
 11:00 デューク大学教会
 15:00 ノースカロライナ州ジャパンプロジェクトのメンバーと会合
 18:00 ノースカロライナ州公立学校協会長宅での夕食会
 ホテル「ホリデーイン・ローリーダーラムエアポート」宿泊
- 8月21日(月)
 08:30 ローリーダーラム空港到着
 (ノースウエスト1725便欠航のため帰国予定延期)
 12:30 ノースウエスト航空用意のホテルにチェックイン
 13:30 ローリー市内のショッピングモール見学
 15:30 歴史博物館見学
 ホテル「ベルベットクロークイン」宿泊
- 8月22日(火)
 06:30 ローリーダーラム空港出発(ノースウエスト1723便)
 ドン・スペンス氏見送り
 08:15 デトロイト空港到着
 12:50 デトロイト空港出発(ノースウエスト69便)

8月23日(水)

15:00 関西空港到着
各地へ到着

4. 事後研究

(1) 第6回研究会

- ① 日時：1995年 9月 9日(土) 13:00～20:30
1995年 9月10日(日) 10:00～15:00
- ② 場所：広島大学附属東雲小学校
- ③ 内容：
 - ・アメリカ合衆国現地調査の報告
 - ・アメリカ合衆国現地調査のチーム別報告
 - ・アメリカ合衆国現地調査に基づく研究チーム別の教材作成のためのワークショップ
 - ・教材作成の中間報告

(2) 第7回研究会

- ① 日時：1995年10月22日(日) 10:00～15:00
- ② 場所：各研究チームの学校
- ③ 内容：研究チーム別の教材開発のためのワークショップ

(3) 第8回研究会

- ① 日時：1995年11月26日(日) 10:30～15:00
- ② 場所：広島大学学校教育学部大会議室
- ③ 内容：
 - ・開発教材の報告
 - ・研究の自己評価
 - ・評価者による評価